

科目名	情報論	単位数	2単位	学期	後期
担当教員	宇田 隆幸		実務経験の有無		○
科目区分	カリキュラムマップを表示する		関連するディプロマポリシー		
ナンバリング	X-31-B-2-420004		経営情報学部C：情報や情報システムの利活用方法を習得し、仕事や生活に活用できること		
授業の目的	<p>本講義の目的は、会社や社会等における課題に関して「データに基づいて課題を解決する場合の基礎能力修得」です。すなわち「広義のデータ分析力」が身に付きます。</p> <p>データ分析は大まかに次の能力が必要とされます。それは、①問題発見力、②データ分析力（狭義のデータ分析力）、③実行力です。このうち、②狭義のデータ分析力が必要とされる「難しい数学やAIアルゴリズム等の知識」は、本講義では簡単な説明に止めます。よって、この知識習得が必要だと感じたときは、別開講の科目（統計学、データサイエンス、人工知能、知識情報、応用統計学など）を履修してください。</p> <p>本講義では、課題解決するとき「意思決定に役立つデータ分析能力の修得」に焦点を当てます。なぜなら、「②狭義のデータ分析」のみでビジネスの課題解決を実施すると、多くの場合、失敗するからです。そこで、まず「データ分析者の心構え」を説明し、続いて様々な課題解決事例を説明しつつ、①問題発見力に必要な思考方法、②狭義のデータ分析で用いるべき方式の選択方法、③実行力に必要な調整を含む行動方法を履修者の皆さんに考えていただき、ビジネスで必要とされる広義のデータ分析力について、文系的思考力を鍛えていただきます。</p> <p>以上のことから、本講義が求める履修者像は文系の学生や、広義のデータ分析分野に興味を抱いた学生です。学生の皆さんは、講義や予習復習において、あなた自身が課題解決策を考えてください。課題解決策を考えることで、広義のデータ分析に対する思考力が涵養されるはずです。将来、今以上の発展が予想される高度情報化社会において、活躍できる人材（生き残れる人材）になって欲しい。なお、具体的講義内容は、1～15回の授業内容を参照されたし。</p>				
学修到達目標	各回の講義内容を学修して授業目的に記載した事項を修得する。				
実務経験との関連性	研究所や会社の勤務時代、データ分析に基づくビジネス意識改革を多数経験しています。また、データ分析に基づくビジネス改革に関する実績を博士論文にまとめることで博士学位を取得しました。				

授業計画	
第1回	履修ガイダンス、情報論・データ分析概論（その1）
第2回	情報論・データ分析概論（その2）
第3回	データ分析の定義、分析の価値（その1）

第4回	データ分析の定義、分析の価値（その2）
第5回	分析モデルの限界
第6回	ビッグデータとリトルデータ
第7回	データ分析でビジネスを変革（概論）
第8回	データ分析でビジネスを変革（課題発見能力）
第9回	データ分析でビジネスを変革（分析能力）
第10回	データ分析でビジネスを変革（実行能力）
第11回	分析力の向上（概論）
第12回	分析力の向上（心構え）
第13回	分析力の向上（取捨選択と貧欲、習慣）

第14回	分析プロフェッショナル, 期末試験の案内
第15回	データ分析という職業の魅力, まとめ
第16回	定期試験

授業時間外の学習	
【予習】時間・内容	配布資料の予習（2時間）。
【復習】時間・内容	配布資料および講義での説明事項の復習（2時間）。

成績評価	
評価基準・方法	期末試験は各講義に沿った問題を数題出題し全問の解答を求める。成績は期末試験結果（80%）と講義途中の提出レポート（20%/超過累進配点）で評価する。
フィードバック方法	課題の解法および参考答案を講義時に説明する。最終課題および期末試験については、参考答案をポータルに掲出する。

アクティブラーニング	
実施の有無	×
実施内容	
教科書/参考書	プリントを配布する。参考文献は毎回、講義の中で紹介する。 参考書：河本薫、「社会を変える分析の力」、講談社現代新書（2013年）。
受講上の留意点等	全体を継続して体系的に講義するので、散発的な出席では理解できなくなる。
JABEE	